

能動的・協働的な学びを支える学校図書館

～委員会活動を通しての読書活動活性化に向けた取り組み～

前橋市立荒砥中学校 藤岡 恭子

1 主題設定の理由

本校では、昼休みに学校図書館を利用する生徒が少なく、利用している生徒も固定化されていることが多い。また、授業でも図書室を利用することは少なく、学習と関係する図書が多いにもかかわらず、それらが有効活用されていない。そこで、委員会を中心とし、生徒自身が読みたい本や使いやすい学校図書館について考えることで、図書館利用の活性化を促し、学校図書館について知ってもらう機会を増やすことで、能動的・協働的な学びにつながっていくのではないかと考え、今回の主題、サブテーマの設定とした。

2 研究の概要

(1) 朝読書の実施

本校では毎月一週間10分間程度の朝読書週間を設けている。朝読書の時間には、漫画や図鑑ではなく、文章の多い図書を読むようにルールを決めている。始業前の朝の静かな時間に、心を落ち着かせて読書ができるような環境を整えている。

(2) 本の紹介の充実

・図書委員会の活動で各クラスの図書委員が一人ずつおすすめの本を選定し、その本の「ポップを作り、紹介文を書く」という活動を行った。またその紹介文を、給食



の時間に図書委員が放送した。その後、図書室に「図書委員の推し本」として展示し、全校生徒が貸出をできるようにした。

・図書司書による紹介コーナーの設置

図書司書が図書室に「新着図書」のコーナーを設置している。図書室のカウンター近くにコーナーがあるため、多くの生徒の目にふれるようになっている。本に司書や委員会生徒が作ったポップを貼っており、生徒が興味をもてるようにしている。



・図書委員会アンケートの実施

図書司書と図書委員会が中心となって、朝の会や帰りの会を利用して全校生徒に向けてアンケート調査を行った。図書館に入れて欲しい本、増やして欲しい本のジャンル、図書館をあまり利用しない理由、どの様な事があれば図書館を利用する回数が増えると思うか等の問いを投げかけた。

(3) 各教科との連携

・図書委員会からの提案で、各教科に関連した図書室にある本にまつわるクイズを図書委員が作成し、それをクラス



ルームで配信、その解答を図書室のカウンターに用意した。 解答正解者には、図書委員が作った手作りのしおりをプレゼントした。

・総合の授業の中での「職業調べ」を各自タブレット端末で行った後、本でも調べてみることにし、図書室で調べ学習を行った。また、国語の授業の中でのレポートを書く学習でも、「参考文献」をタブレット端末で調べた後に、図書室の本を教室に持ち込み、その本からも調べるという取り組みを行った。

3 成果と課題、反省点等

①成果

こういった取り組みを行ったところ、今まで読書に関心がなかった生徒も関心をもつようになった。 ポップを作った生徒とその友達が図書室に来て、図書について話をしたり、本を薦め合ったりしていた。また、紹介コーナーの本について、図書司書に尋ねる生徒もいた。 さらに、クイズに興味をもった生徒が図書室に来館するようになり、学習と関連する図書を生徒が手に取りやすくなった。休み時間などに新着図書の周りに集まっている生徒もおり、生徒の能動的・協働的な学びを支えることができるようになった。

②課題、反省

学校図書館を利用する生徒は増えたが、依然としてほとんど利用しない生徒もいる。全校生徒に行った図書委員会アンケートの中の、「どの様な事があれば図書館を利用する回数が増えるか？」の問いに、「貸出期間を長くする」「スタンプラリーやビンゴなどのイベント」「クラス対抗で貸出競争」などの意見が出た。それらの意見を生かして、さらに、委員会活動と連携して生徒の興味をひけるようにしたい。なお、「勉強ができる機の配置」や「プライバシーが守られる機の配置」などの意見も出たことから、コロナ禍による他者との距離感の捉え方にも変化が生じていることに合わせて、図書館環境も整備し、配慮をしていくべきだと感じた。また、図書館を活用する教科に偏りがあることも課題である。少ない学習時間の中でも学校図書館を利用できるように、ICT教材との併用を今後も考えていきたい。そして、忙しい中学生にとって授業時間に本を借りられる時間を確保する工夫もすべきだと感じた。

4 まとめ

今回の取り組みを行うことで、読書活動活性化に向けた学校図書館の活用を考えることができた。ここで構築した読書環境を今後も維持していくことで、全校生徒の読書生活をより有意義なものにしていきたい。

能動的・協働的な学びを支える学校図書館

～読書活動の活性化を目指す読書指導～

高崎市立新町中学校 竹内 敏江

1 主題設定の理由

本校の図書室の蔵書は、約 12,000 冊、充足率は 113% で学校図書館としての冊数は条件を満たしている。しかし毎月の貸し出し数になると、生徒一人当たり 1 冊にも満たず、貸し出し数は少ない。特に 3 年生の図書室利用・本の貸し出しが極端に少ない。生徒に人気の主な本のジャンルは、『5 分後に意外な結末』（学研プラス）という短編シリーズや映画アニメ原作本などで、その他ライトノベル、マンガの活字版などで、本格的な小説や、ベストセラーなどを揃えても、貸し出しは伸びない。

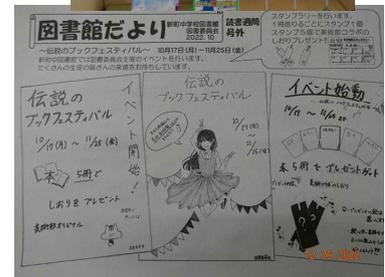
3 年生はコロナで入学が 2 か月遅れた学年であり、行事や部活など学校生活に様々な制限があった学年で、図書室利用も学年別で利用するなど、かなり制限があった。そのため、彼らの学校生活に図書室利用の習慣がなく、十分に身につけていないことが考えられる。

また、本校では毎朝全校で 10 分間の朝読書を行っており、学期ごとに図書委員会が選定した学級文庫などもそろえているが、その関連本や続きが読みたいなどの興味を引き出すことはできず、図書室で本を借りてまで読むという行動にはつながってはいない。そこで、生徒の興味を喚起し、まずは図書室への来室を増やすことを目指した。そして少しずつでも生徒の読書生活を向上させたいという思いで上記の課題を設定した。

2 研究の概要

① 図書委員会の活動

図書委員のクラスごとの貸し出し当番が主な仕事である。秋の読書週間ではイベントを企画したり広告のポスターを作って掲示した。図書委員が好きなおすすめ本を 1 冊紹介する紹介本コーナーがありポップを作って、実際に手に取れるよう本を展示している。



② 秋の読書週間

秋の読書週間に合わせ「伝説のブックフェスティバル」を実施。美術部とのコラボ企画で、美術部員が作った「しおり」をスタンプ 5 個（1 冊借りると 1 個）で好きなしおりをプレゼントした。1 か月の期間中に貸し出し冊数は 400 冊だった。



③ ビブリオバトル

図書室利用が少ない 3 年生の利用を拡大するために、国語科の授業でビブリオバトルを行った。クラスチャンプ本を決めた後、6 冊のクラスのチャンプ本の中から、体育館で学年大会を行い、学年チャンプ本は『うちにかえったガラゴ』（島田ゆか）に決まった。3 年生ではしばらくの間、ガラゴフィーバーが起きた。

ビブリオバトル中に 3 年生が図書室に来て本を借りた生徒が多かったため、一時的にはあるが、3 年生の貸し出し数が、いつもの 2 倍と大幅にアップした。

ビブリオバトルの様子→



④ 読書×給食コラボ

3年生のチャンプ本が決まり、給食室の協力によりコラボ給食の企画が実現した。

メニューは、『うちにかえったガラゴ』よりガラゴが友達を招いて振る舞った「カレー」「焼きリンゴ」がメニューとして登場した。カレーは、ガラゴの絵本のサフランライスを真似るため、バターライスにして、絵本のような黄色いライスを工夫してくれた。給食時間に本も生徒に紹介され、メニューとしても話題となった。このイベントは、図書館だよりや給食だよりに紹介された。



《11月の図書館だよりより》



ガラゴのメニュー

3 成果と課題、反省点等

コロナが蔓延して以降、先年度までは、図書室の開館は学年別に週一回だけだったが、今年度から学年別ではあるが、毎日図書室を開館するようにした。毎週月曜日、給食の放送で学年利用の予定やイベントの告知など、図書委員が主体となって放送するようになった。

2学期は、秋の行事のため、合唱練習や学習発表会準備などクラス単位で昼休みを利用する行事が続き、生徒が図書室へ来る機会が少なくなってしまう、それに伴い貸し出しも減少した。この時期はどうしても図書室への足が遠のくということが常態化していることから、この時期の図書室利用方法について考えていく必要がある。

好評だった給食のコラボ企画は、本のメニューが給食に登場して、生徒にも話題を提供した。特に3年生では紹介本も人気で、貸し出しも多かった。しかし、全校生徒への興味喚起という点では、もっと生徒全体に企画が浸透してもよかったのではないかと考える。

ビブリオバトルは、全学年を通して開催できたら、かなり読書環境の活性化につながると思われる。それを実現するには各学年の教科などとの連携と協力が必要になってくる。学年チャンプ本を決め、学校チャンプ本を決定する大会が開けたら素晴らしいし、それを目指していく努力をしていきたい。

4 まとめ

図書室の環境整備を行い、興味のある本を揃え、本の紹介をして、生徒が図書室へ来るようにいろいろな企画を実践した。これからも多くの情報を発信しながら、多くの生徒が、まず図書室に来てくれるよう図書館活動を活性化し盛り上げていきたい。

能動的・共同的な学びを支える学校図書館

～読書活動の活性化を目指す読書指導～

桐生市立広沢中学校 川島 徹

1. 主題設定の理由

本校は全校生徒が265名、各学年3クラスのいわゆる中規模校である。生徒は、学習や部活動に対して熱心に取り組む姿も多く見られ、安定した学校生活が送れている。しかし、数年前に校時表が改訂されて朝読書の時間が廃止になり、生徒の「落ち着いて本を読む」時間が無くなったことで、「生徒の身近なところに本がある」状況も無くなり、「図書室への関心」や「読書の習慣」が無い生徒が多く見られるようになってしまった。その結果、一部の生徒しか図書館を利用していない現状になっている。そこで、生徒が本に触れる機会を増やすことと、図書室への関心を高めることが「本好きの生徒」を育成すること、読書活動の活性化につながると考え本主題を設定した。

2. 研究の概要

(1) 読書環境の整備

○校時表の変更（朝読書の時間の復活）

読書環境を整えるためには、「落ち着いて読書ができる時間」を保証することが第一だと考え、学校長に相談して「朝読書の時間を復活」を目指した。「朝の時間10分」を保証することで、教師も生徒も「読書をして落ち着いた気持ちで授業に臨む」ことができると考え提案した。その結果、運営委員会や職員会議での検討を経て、二学期から校時表が変更され「朝読書の時間」が復活でき、自分の読みたい本が身近にあるという環境ができ始めた。

○「読書の本」の検討

「朝読書の時間」の復活に伴う問題として、「読書する本」の内容を検討する必要性が生じた。最近の生徒の趣味嗜好が多様化していることから、生徒が自由に本を選ぶことを認めると、学校の学習の一環として読むことにふさわしいのかという懸念も少なからずあった。そこで、まずは生徒に考えさせるようにした。図書委員会の議題として「学校で読みたい本」と「学校で読むときにふさわしくない本」を考えさせるようにした。結果としては、良識の範囲を逸脱するようなものを選択する生徒はおらず、漫画や写真集などの本以外は概ね認めていく方向となった。

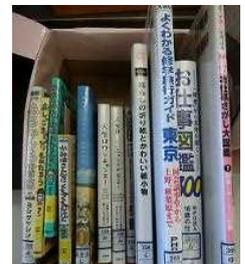
(2) 図書館管理補助員と連携した取り組み

○学級文庫・保健室文庫の設置

本校は図書室が四階にあるため、同じ階で生活をしている1年生以外はなかなか来室しづらいという状況がある。そこで、図書室の本が手軽に読めるように、各学級に「学級文庫」を設置している。本は図書委員が選び、毎月本を交換している。

また、図書室にも、「福袋図書」も設置し、読書意欲が高まるようにしている。その時期の流行やジャンル、分量などに配慮しながら、図書館管理補助員が選んでいる。

さらに、教室になかなか足が向かず、保健室で過ごす生徒が、合間の時間に読書ができるように「保健室文庫」も設置している。定期的に入替え、保健室登校の生徒に合うような本、養護教諭の要望などを加味しながら、図書館管理補助員が選んでいる。



○リクエスト図書の選定

「生徒が読みたい」という意識があれば読書意欲が増える。そこで、図書室の蔵書購入の時期に生徒が読みたい本のリクエストをつのり、生徒が読みたい本ばかりに偏向しないように注意しながら購入するかを精査している。また、図書委員会の活動としても、カタログだけでなく、インターネットで調べながら検討してきた。読みたい本が入ると生徒は意欲的に図書室を利用するようになるし、「次はこんな本を入れてほしい」という要望が増え図書室の新刊を意識する機会が増えると考えた。

(3)「おすすめの本を紹介しよう」

図書室に行っても、どんな本を選んでいいのか迷ってしまう生徒や図書室にどんな本があるのかわからない生徒もいるのが現実である。そこで、「おすすめの本を紹介する」活動を通して、本に興味を持てるのではと考え取り組んだ。「〇〇先生のおすすめの本」、「図書委員のおすすめの本」を紹介する活動に取り組んだ後、国語の授業と関連させて、「はがき新聞」形式で読書紹介に取り組ませた。活動を始めると、図書室で熱心に本を選んだり、図書館管理補助員に本の選定を助けてもらったりする姿も見られ、図書室に関心を持つ生徒が増えたように感じた。



3. 今年度の成果と課題、反省点等

今年度の取り組みを通して充実できたことは、読書習慣を整えることと、図書室の環境整備である。「朝読書の時間」が復活したことで、「自分の身近に本がある」生徒が増えてきた。また、朝読書のために本を図書室で準備使用をする生徒も見られ始めた。その結果、朝読書の時間だけでなく、すき間の時間に本を読む習慣もついてきた。

また、「本の福袋」の設置や保健室文庫の設置といった、図書館管理補助員の細やかな気配りのおかげで、図書室に関心をもつ生徒が増えてきたこと、なかなか図書室を利用できない保健室登校の生徒にも本を読む環境を整えていただけたことは大変ありがたく、感謝している。

先生方や図書委員の「おすすめの本紹介」を掲示したことをきっかけに、生徒一人一人に「おすすめの本紹介」活動を広げ、生徒達の読書意欲を刺激したのではないかと。紹介のはがき新聞を書くために、図書館を利用する機会を意図的に設けたことも、興味をもつ一因となったのだろう。ただ、「おすすめ本紹介」活動は、生徒の「読みたい」意欲を刺激することはできたが、選ぶ本が「5分後シリーズ」「54字シリーズ」などの短編小説集に偏りがあつたことも事実である。長編小説をじっくり読むことはまだまだ生徒は苦手としているようで、今後の課題に挙げられるだろう。

4. まとめ

1年間、「読書活動の活性化」というテーマに基づいて図書館活動に携わってきた。生徒の「本を読みたい」という気持ちは、多少刺激することができたように思う。しかし、やはり読む本の内容は短編小説集に偏りがあつたこと、長編小説をじっくり読む生徒はまだまだ育っていないといえる。今後も引き続き「本好きな子を育てる情報発信基地」としての学校図書館のあり方を考えていきたい。

1 主題設定の理由

本校では本年度から、昨年度まで感染症対策のため行っていた図書館の利用制限を緩和し、全学年が昼休み中であれば好きな時間に学校図書館を利用することが出来る以前の利用形態に戻った。一方で図書館の利用者状況は以前に比べ芳しくない、感染症対策以前に比べ図書館の利用者、貸し出し数共に減少している。特に一学年の生徒は読書の習慣がついておらず、図書館の利用者も他学年に比べて少ない。そのため本研究では特に一学年の生徒に向け、図書館の利用と読書の習慣化を促す活動を行うこととする。本研究においては「図書館の利用回数の増加」と「図書の貸し出し数の増加」を「読書活動の活性化」として定義する。また、読書活動の活性化を図るために、昼休みの20分間の図書館利用のみでは不十分であり、授業を通じた読書活動へのアプローチが必要であると考えた。そのため本研究では国語科の授業を通して図書館を利用し読書活動の活性化を図ることとする。

2 研究の概要

① 令和4年9月 一学年の国語の単元「大人になれなかった弟たちに……」の事例

本事例では、作中の時代について情報を収集する活動において図書館を利用した。本授業の目標は「当時の生活様式や、現在では使用されていないものや言葉の意味を調査し、教材への理解を深めるとともに、現代との違いを考える」である。

図書館の利用内容として、はじめに作中の舞台である第二次世界大戦についての本を紹介し、その後班の活動として戦争についての資料を基に生徒が調査する時間を設け、調査した内容を共有しあった。



② 令和4年11月 一学年の国語の単元「蓬萊の玉の枝—『竹取物語』から」の事例

本事例では、古典の世界観を理解するために、言葉の意味や当時の人々の考えについて調べる活動において図書館を利用した。本授業の目標は「古典についての知識を深め、古典に親しむ」である。第一学年にとって古典の分野は中学校に進学してから初めて触れる内容になる。そのためカラーイラストや図解を通して、生徒が苦手意識を持たずに古典に親しむことができるように図書館を利用した。

図書館の利用内容として、「大人になれなかった弟たちに……」の事例と同様に、古典についての資料数冊と図書館内の古典分野のコーナーを紹介した。その後班活動として「蓬萊の玉の枝—『竹取物語』から」の文中から①単語の意味、②書かれた時代背景、の二つの内容について調べ、ワークシートにまとめた後、班および全体で情報を共有した。



③ 令和4年12月 一学年の国語の単元「今に生きる言葉」の事例

本事例では、故事成語の意味と成り立ちを調べる活動において図書館を利用した。本授業の目標は「故事成語の意味や由来を調べ理解すること」である。本事例では図書館の故事成語辞典を用いて故事成語の意味と由来について調べた。故事成語の「矛盾」についての授業の後、日常生活で使うものから、普段は耳にしないものまで幅広い故事成語を30語ほど示した。その中から一人5つ以上調べて班で共有することとし、辞典を使って調べた。



3 成果と課題、反省点

①の事例の成果としては以下の内容があげられる。生徒は資料を基に調査を行う経験が乏しいため、はじめは何を書くのか定まらなかったが、次第に調査した内容を他の生徒と話し合い共有することができた。戦争により自分たちの地域にはどのような影響があったのかを調査した生徒もいた。図書館を利用することで作中の背景について理解を深めることができた。

②の事例では、他の生徒と意見を交わすことで主に古文単語の意味を理解し、古典についての知識を深めることができた。また、資料を調査する中で、古典作品を現代語訳した蔵書に興味を示し、授業後に貸し出しを行った生徒もいた。

③の事例の成果としては、調べ学習を通して、故事成語について知らなかった言葉の意味や使い方、由来を学ぶことができたことである。さらに、辞書を活用して知識を拡げる活動を行うことができ、生徒によって差異はあったものの限られた時間で効率よく辞書を活用し、個人で10語ほど調べた生徒もいた。

三つの活動を実践したところ、一学年の生徒二学期の図書館の利用回数、貸し出し数は一学期に比べ共に増加した。このことから国語科の授業に図書館の利用を取り入れることで読書活動の活性化につながるということが分かった。しかし、授業で取り扱った9月、11月、12月の利用者は一学期の平均値に比べそれぞれ増加したものの、授業で図書館を利用しなかった10月は一学期に比べ利用者は減少した。さらに9月、11月、12月に関しても増加率は高くはなかったことから、直接的な大幅な効果や継続性が期待できる活動とはいえない。

一方で生徒は、提示された課題の調査を行ったことで、「図書館の利用に関して新たな知見を得た」という振り返りを行っていた。このことから、図書館は「本を借りる場」「本を読む場」という認識から、「資料を利用して課題を解決する場」として生徒が新たに認識したことが窺える。このことも本研究における成果であるといえる。

調べ学習を行う際に、課題に対して何を調べればよいのか戸惑う生徒も見受けられた。そのため改善点として、調査範囲を具体的かつ明確にし、生徒の円滑な調べ学習を促す、ということが考えられる。

4 まとめ

本研究は対象を一学年の国語科に限定して行った。全学年に向けた読書活動の活性化活動として、図書委員会による「先生のおすすめ本」のコーナーや「図書館クイズ」などを行っている。今後も授業での図書館の利用や、委員会活動など多角的なアプローチを通して読書活動の活性化を促したい。

「活動的・協働的な学びを支える学校図書館」
—読書活動の活性化に向けての委員会活動の取り組み—

太田市立南中学校 飯塚悠美子

1. 主題設定の理由

本校は、700人を超える生徒が在籍しているが、休み時間の図書館利用者は少ない。毎朝、朝読書に取り組んでいるが、1年間ずっと同じ本を読んでいる生徒も多い。また、各クラスに学級文庫として10冊程度配置しているが、読んでいる生徒は少ない。今は週3日、昼休みにしか貸出日を設けていないので、短い昼休みに利用する生徒も少なく、利用する生徒も同じ生徒が多いのが現状である。少しでも読書活動が活性化するようにこのテーマを設定した。

2. 研究概要

① 絵本コーナー

少しでも本に触れてほしいと考え、小さい頃に読んだことある本や、新着の絵本と設置することで、もっと絵本を置いてほしいと生徒からのリクエストも出てくるようになった。年齢に関係なくみんなで絵本を楽しんで読めるような、中学生でも楽しめるような絵本コーナーを設置した。



② 新刊コーナー

図書室に入ってすぐに目がつくように、入り口のすぐ横に新刊コーナーを設置した。図書室に入ってまずは立ち止まってほしい場所。図書室にも新しい本がたくさん置いてあることを知ってもらい、たくさんの生徒に利用してほしいと考え設置した。設置するだけではなく、ちょっとした本の紹介等も飾ることで



③ 人気コーナー

図書室の廊下に中学生の人気ランキングを掲示することで、足を止め、ランキングを見てから図書室に入って来る生徒も多くいる。また、貸し出し数の多い本を同じような場所に設置し、ポップを飾りながら知ってもらおう工夫をした。毎月、貸し出し数の多い本を委員会で集計し、配置等を工夫した。



④ 国語の授業との関連

1年生は国語の授業で、自分の「お薦めの1冊」という題でポップを作成した。基本は図書室にある本のポップを掲示したが、図書室に置いてない本のポップは冊子にして、図書室で自由に見られるように設置した。



3. 成果と課題

昨年度から図書室の本の貸し出しは火・水・木の3日間でいい、それ以外の日の貸し出しは行っていない。そこで、急激に図書室利用者が減らないように、委員会の生徒や図書室の先生と一緒に図書室の運営を考え、絵本コーナーや国語の授業と絡めて、ポップ作成などを行い。急激に図書室の利用者が減ることはなかった。しかし1年間、授業以外で図書室を利用している生徒はとても少ない。各クラス3～5名程度だった。また、教室から図書室までの移動に時間がかかるので、昼休みに図書室に来ても図書室で過ごせる時間が少ないので、図書室に足が向かない生徒もいたようだった。

来年度からは、図書室を利用する生徒はいつも決まった生徒だったので、もっといろいろな生徒が利用したいと思えるような図書館経営を考えなければならない。

4. まとめ

毎日の朝読書の様子からも図書室の本の選定や図書室の環境整備など思考錯誤しながら取り組んできましたが、タブレットが導入されてから図書室での調べ学習等も減ってしまい。ますます図書室に来る生徒も減ってきている。図書委員会の生徒もお薦め本の紹介をしてくれたり、生徒からどんな本を置いてほしいかなどアンケートをとったりしてくれた。委員会の生徒はとても積極的に楽しみながら活動していたので、生徒と一緒に、さらに読書活動の活性化に向けての委員会活動の取り組みを工夫していきたい。



能動的・協働的な学びを支える学校図書館

～課題解決に向けた図書館の利用～

沼田市立沼田東中学校 登坂 俊介

1 主題設定の理由

本校の学校図書館は、3階に位置し2年生の教室からは近いものの、2階、1階の1・3年生の教室からは比較的遠い場所にある。図書室の利用は2年生が主であり、1・3年生の利用は少ないのが現状であった。また、図書館司書が配置されていないため、図書館運営は図書担当教諭と図書委員によって行われている。そのため図書の管理等も行き届かないことが多かった。

能動的・協働的な学びを支える学校図書館にするために、まずは図書館の環境を整え、生徒が通いやすく、「行きたい」と思えるような図書館にすることが重要であると考えた。また、昼休み等を使い生徒が学習に取り組む環境を整えられるよう、学習に関する本や漢字検定等の参考書を目のつきやすい場所に配置する必要があると考えた。そこで、図書委員の生徒に投げかけたところ、「もっとたくさんの方が立ち寄り、図書館で落ち着いて過ごしてもらいたい」「誰にも邪魔されずに勉強でき、必要な情報を得ることができる環境を整えたい」という意見が上がったため、「課題解決に向けた図書館の利用」という副主題を設定した。

2 研究の概要

1 図書館の環境整備(居心地のよい図書館にするために)

本校では、月に1回委員会活動を行っている。今年度は「図書館の環境整備」に重点を置き、図書の配置の工夫や不要になった図書の廃棄などを行った。コロナ対策も兼ねて1つの机につき生徒2人までという制限を設けたことにより、落ち着いて快適に読書に励んでいる生徒や学習に取り組んでいる生徒の姿も見ることができるようになった。また、新たな取り組みとして、今年度からPTAの役員の方々にも協力していただき、図書館の環境整備を行った。



PTA役員の方々による図書の整理と廃棄の様子

2 学習に役立つ本の配置(課題を解決できる図書館にするために)

検定参考書やキャリア教育に役立つような本を図書委員と選定し、目のつきやすいところに配置した。また、国語の学習ではビブリオバトルの本を図書館から選ぶなど、図書館を利用したことがない生徒も図書館に入る工夫をすることで興味のある本を見つけ、図書館に興味をもってもらえるよう工夫した。



検定参考書の配置

3 リクエスト図書の購入(「行きたい」と思える図書館にするために①)

図書館をどのように整備したら生徒が「行きたい」と思える図書室になるかを図書委員の生徒と考えたところ、「生徒のリクエスト図書を購入し、目立つところに配置するのが良いのではないか」という意見が出たため、実践した。これにより、今まで2年生が主に利用していた図書室が1・3年生も利用するようになってきた。また、読みたい本が図書館に入っているため、本を借りて朝読書の時間に読んでいる生徒も増えてきた。

4 おすすめの本コーナーの設置(「行きたい」と思える図書館にするために②)

生徒のリクエストで購入した本や、学校行事等に合わせ、おすすめの本コーナーを設置し、図書館を利用する生徒が目につきやすいようにした。月1回の委員会ごとにおすすめの本を変更し、帰りの会等で図書委員が各クラスに伝達し、図書館を利用したくなる生徒が増えるよう工夫した。



3 成果と課題、反省点等

(1)成果

① 不要な図書を選定する作業を通して、見つけられなかった本が見つかったり、新たに興味のある本が見つけれられたりと図書に関する興味・関心が高まった。また、環境整備を行ったことにより昼休み等に図書館を利用する生徒が増えたり、図書館を利用し学習する生徒が増えたりするなどの成果が出始めてきた。また、PTAの役員と協力したことにより、保護者が子供に読ませたい本等も配置し直すことができた。

② 検定前には図書館にある参考書を借りに来る生徒が増え、図書館の利用生徒数が増加した。今までは図書館に近い2年生が主に図書館を利用していたが、参考書を借りに来た際に興味のある本を見つけ、借りていく生徒も増えた。また、授業で図書館を利用したことにより、図書館をまったく利用したことのない生徒にも図書館の魅力を伝えることができた。

③ リクエスト図書を大量に購入したことにより、どの学年もまんべんなく図書館を利用してくれるようになった。友達同士で読んで面白かった本を紹介し合うことにより、図書の貸し出し冊数が大幅に増加した。

④ 図書委員がおすすめの本を伝達することにより、興味をもって借りにくる生徒が増えた。また、どのような本が新しく入ったかを伝達することにより、自分が読みたい本が図書館にあることを知り、図書館に足を運ぶ生徒が増えた。

(2)課題、反省点

学習の課題を解決するための本がまだまだ少ない。各教科のどの単元・題材で図書館が利用できるかを計画してもらい、どのような本を図書館に入れてほしいかを聞きつつ、積極的に図書館に入れていく必要があると感じた。

4 まとめ

能動的・協働的な学びを支える学校図書館を作るためには、生徒が図書館に対して抵抗なく、気軽に利用することができる環境作りが大切なことがわかった。また、課題解決に向けて図書館を利用するためには、図書館担当教諭と図書委員だけではなく、他の先生方にも協力を仰ぐことも大切だとわかった。各教科に必要な図書や各教科のどの単元・題材で図書館を利用できるかを考えてもらい、必要ときに図書館を活用できるよう環境整備をしていく必要があると感じた。一人一台端末が導入され、インターネットで様々な情報を調べることができるようになった今だからこそ、図書館の重要性や必要性を生徒に伝えていけるようこれからも環境整備と図書の選定を行っていき、生徒が必要感をもって図書館を利用できるようにしていきたい。

(能動的・協働的な学びを支える学校図書館)

——親しみのある図書室になるために——

館林市立第四中学校 熊田ちづる

1 主題設定の理由

本校の図書室は親しみのある子の利用に限られており、少し物寂しく感じられる時があります。そのため、子ども達にとって親しみのある図書室になるためには、どのような工夫を学校全体でしていけばよいのだろうかと考えることが職員の間でも多くなったため、このサブタイトルと繋げて考えていきました。

2 研究の概要

主題にせまるための基本的な考え方

能動的(動き)や協働的(支え合い)のある、図書館としての役割を保つために、我が校ではまず図書委員会を代表に行動させています。その委員会内で決まった内容やイベントを全生徒に朝の会や放送、また学校で支給されている ICT 機器を活用し共有しています。このような形で、生徒の興味・関心をひくような図書室を作り上げていこうと考えながら活動しています。

具体的方策の実践

ICT 機器を利用して、G o o g l e クラスルームを使用し、図書館だより【写真①】や新着図書だより【写真②次ページ参照】を生徒に連絡して気軽におたよりを見てもらえるように工夫しました。図書委員の生徒の生徒達にも、一ヶ月に一度朝の会を用いて図書館で開催しているイベントなどを伝達してもらい、図書館を活性化させるために取り組んでいました。↓【写真①】



第四中学校
12月の図書だより
令和4年12月7日発行

今年も12月に入り、寒くなってきましたね。寒い日には暖かな場所でゆっくり読書を楽しみましょう！気になっていたあの本や新しく買った本など、この機会に読んでおくのがおすすめ。ぜひ図書室へ本を借りに来て下さい。

そして今年も下記の通り、冬休み前特別貸し出しや、図書委員がおすすめする本の**福BOOK**貸出をします。

中身は借りてからのお楽しみ♪
数に限りがあるので気になる人は、お早めに図書室へ！



冬休み特別貸し出し

期間 **12月19日～23日**
1人 5冊までOK!
返却日 **1月11日～14日 厳守!**



しおり総選挙結果発表

1位 得票数 47票	3年2組	相子 陽南乃 さん
2位 得票数 30票	1年4組	加藤 さおり さん
3位 得票数 28票	1年4組	加藤 さおり さん
4位 得票数 9票	3年1組	新井 美咲 さん
5位 得票数 8票	3年1組	中島 あいり さん
6位 得票数 7票	1年5組	平 夏蘭 さん
7位 得票数 6票	3年5組	加藤 奏来 さん

投票ありがとう！

しおり引換は 12月16日昼休みから
しおり引換券1枚につきしおり1枚と交換できます。
数に限りがあるので、美術部さんのしおりは1人1枚までです。

今月のおすすめ本

その本は 文庫版 『 文庫版 』 気分転換に	その本は 双葉文庫/ヨシタケシンスケ 著 本の好きな王様のために、二人の男が世界を旅してたぐさんの本の話を持ち帰り、夜ごと語りだした。笑って読めてちょっと泣けるたぐさんの本の話は短くて気分転換にもおすすめの1冊です。	のぼ探人 日本史入門 玉先生 著 本郷和人 監修 【こんな本】この本は、無料のインターネット塾「WEB塾」の塾長・玉先生がつづいた日本史の超入門書です。これから日本史を学ぶ中学生や日本史が苦手な高校生はもちろん、大人の学び直しにもピッタリ！日本史を学ぶうえで大切な、歴史の流れをおさえる工夫や、思い出しやすくなるための工夫がされています！ 楽しく学習
---	---	---

返却期限を過ぎた本は、今年のうちに戻却しましょう。

来年も図書館と会いましょう！

書影	書影	書影	書影	書影	書影	書影	書影	書影	書影	
書ラベル	007 ヲ	013 ヲ	019 ヲ	090	141 イ	141 オ	148 カ	150 オ	159 イ	164 サ
書名	プログラマーの一日	司書の日	読書家が教える 読書感想文教室	読書家 別巻 読書の里沼 日本遺産認定記念	なぜ、穴を見つけないときたくなるの？	やる気にならずやる人になる37の科学の先に延ばしをなくす	陰陽師の解剖図鑑 日本を興えた異能の者たち	生きるための「正義」を考える本	モンキーパンチ	マンガでわかるキリンパンチ 話：個性豊かな神々のおもしろエピソードが満載！
著者	WILLことども知育研究所	WILLことども知育研究所	藤原 明夫	読書家 別巻 読書の里沼 日本遺産認定委員会	石川 幹人	大平 信孝	川合 肇子	押谷 由夫	池谷 裕二	佐藤 俊之
書誌番号	824221253	824221261	824220800	824220816	824221659	824222053	824221337	824221055	824221121	824220842
分類	総記	総記	自然	総記	自然	哲学	哲学	哲学	哲学	哲学
書影	書影	書影	書影	書影	書影	書影	書影	書影	書影	
書ラベル	198 タ	238 ヒ	280 キ	281 オ	289 タ	290 チ	300 ツ	300 ツ	300 ツ	300 ツ
書名	いいんだよ、昨日までのこと全部	一冊でわかるロシア史	感動物語 = 366 days of heart touching	すごいやい! 戦国武将伝 藤原 泰経	キャザン・ジョンソン	地球の歩き方 2022~oo 世界への歩き方	ドラえもん社会ワールド 地図の秘密	ドラえもん社会ワールド お金のひみつ	ドラえもん社会ワールド 日本国際社会	ドラえもん社会ワールド 日本歴史
著者	田中 満矢	関 眞興	木平 木緒	小和田 泰経	田中 さほな	地球の歩き方編集室	藤子・F・不二雄 まんが	藤子・F・不二雄 まんが	藤子・F・不二雄 まんが	藤子・F・不二雄 まんが
書誌番号	824222079	824222012	824221170	824221501	824221568	824222020	824220362	824220313	824220354	824220404
分類	哲学	歴史	歴史	歴史	歴史	歴史	社会	社会	社会	社会
書影	書影	書影	書影	書影	書影	書影	書影	書影	書影	
書ラベル	300 ツ	300 ツ	300 ツ	300 ツ	300 ツ	300 ツ	300 ツ	302 ハ	317 タ	
書名	ドラえもん 社会ワールド 憲法ってなんだろ	ドラえもん社会ワールド 政治のしくみ	ドラえもん社会ワールド 古代文明の秘密	ドラえもん社会ワールド 世界地理のしくみ	ドラえもん社会ワールド 日本地理のしくみ	ドラえもん社会ワールド special みんなのための法律入門	ドラえもん社会ワールド 経済がよくなる	ドラえもん社会ワールド 情報に強くなる	クライネを知るための65冊	消防官の一日
著者	藤子F. 東京弁護士	藤子F. 鈴木 寛	藤子・F・不二雄 まんが	藤子・F・不二雄 まんが	藤子・F・不二雄 まんが	藤子・F・不二雄 まんが	藤子・F・不二雄 まんが	藤子・F・不二雄 まんが	藤子・F・不二雄 まんが	WILLことども知育研究所
書誌番号	824220339	824220347	824220321	824220412	824220388	824220420	824220396	824220370	824220941	824221246
分類	社会	社会	社会	社会	社会	社会	社会	社会	社会	社会

借りたい本が見つからない時は小久貴まで声をかけてね。誰かに借りられていたら、予約もできますよ。

3 成果と課題、反省点等

昨年から一転し、クラスルームでの配信や放送を積極的に取り入れたことで、図書館という場所で行われているのか、どのような場所なのかということ、気軽に多くの生徒達に理解してもらえることができました。しかし、読書する習慣をつけることや読書に対して深みを感じるという観点については、欠けてしまっている部分もあったと実感し、反省しています。そのため今後の課題として、うまくこの世の中と付き合いながら、実施方法を考えながら活動を行っていきたくと前向きに考えています。

4 まとめ

初めてのICT機器を通しての発信で戸惑ってしまう、コロナ禍の中において中々実践できないイベントもあり、悔しい思いも沢山ありました。しかし、多くの生徒や先生、保護者の方々にも今年度の図書館の雰囲気や様子を知ってもらうことができ大きな進歩だと感じています。これからも本と人との関係とを密接に関わりながら気あふれる親しみ深い図書室にできるよう、努めていきます。

能動的・協働的な学びを支える学校図書館

—学校図書室利用の活性化を目指して—

藤岡市立小野中学校 瀧本 考志

1 主題設定の理由

本校では毎日 10 分間朝読書に取り組んでいます。生徒は自分の好きな本を選んで読んでいます。昨年読書アンケートをとったところ、朝読書で男子は漫画を原作にした小説、女子は話題の小説を読むことが多い事が分かりました。また、本をどのようにして手に入れるかという質問では、ほとんどの生徒が自分で購入するという結果が出ました。図書室の本を利用する生徒は少なく、全体の 2 割弱でした。理由を聞いてみると、「返すのが面倒」「自分のペースで読めない」などが挙げられました。

そこで、朝読書の本を選ぶ際に図書室利用を促すことで、生徒の読書の幅を広げたいと考え、本副題を設定しました。学校図書室は中学生に適した幅広いジャンルが用意され、購入するよりも多くの本に手を出しやすいという手軽さがあります。朝読書の時間は毎日あるので 1 冊の本もすぐに読み終わってしまいます。朝読書の本を毎回購入するよりは、図書室の本を利用する方が経済的にもよいはずで。そして図書室の本を借りに行くことをきっかけに、自然と図書室の魅力に気づき、自分から図書室へ本を探しに行く生徒が増えていくだろうと考えました。

2 研究の概要

本研究の基本的な考え方は、生徒の本への興味を優先させるということと、生徒が自ら図書室へ足を運ぶようになるようなきっかけをつくるということです。

そこで研究の実践として「朝読カード」を作成することにしました。(図 1) この読書カードは連携している小野小学校ですでに実践しているものです。(図 2) それを中学校でも取り入れ、小学校からの読書習慣を継続させる意味でも効果があると思いました。



図 1 (中学の朝読カード)



図 2 (小 1 の読書カード)

「朝読カード」の中には中学校の間に読みたい本 32 冊が載せてあります。この 32 冊は群馬県教育委員会生涯学習課より発行されている「本の扉をあけてみよう～ぐんまの小中学生に贈る 131 冊～」(令和 3 年 8 月発行)より中学生むけの部分を抜き出しました。この 32 冊を紹介されている部分(図 3)を各教室に掲示し、自分が読みたいものを自由に選べるようにしました。また、読み終わったら担任からチェックをもらえるようにし、読書への意欲が高まると共に、持続できるようにしました。司書にも協力してもらい、図書室にコーナーを

設けてもらいました。
 「朝読カード」の裏表紙には読書メモ欄を用意し、自分が読んだ本の日付や内容をメモできるようにしました。そのメモを活用し、国語の授業で読書紹介やビブリオバトルなどの活動にもつなげていきたいと考えています。



図 3 (教室掲示資料)

また、「朝読カード」の大きさをなるべくコンパクトにすることで、朝読で読む本のしおりにもなるようにしました。そうすることで、常にカードを意識することができると思えました。

3 成果と課題

〔成果〕

- ・自分では選ばない本などが紹介されているので、生徒が様々なジャンルに挑戦するきっかけになった。
- ・朝読書の時間に宿題などをしていた生徒も、自分から読んでみようという気持ちになり、読書への意欲の高まりが感じられた。
- ・授業などで図書室を利用すると、朝読書コーナーの様子を気にして見る生徒が多くなった。以前と比べ図書室の本に関心をもつ生徒が多くなった。
- ・朝読書への雰囲気の変化し、学校全体で読書しようとする雰囲気ができてきた。
- ・小中の連携がとれ、9年間に渡る読書指導が見通せるようになった。

〔課題〕

- ・紹介されている本が学校に 1 冊しかないため、読みたいものが貸し出されている場合は、結局自分で買わないといけなくなったりしたこともあった。本の配架の工夫や、市の図書館とも連携するなどの工夫が必要だと感じた。
- ・クラスにより多少取組に差がでてしまうことがある。国語の授業や図書委員会から呼びかけをする必要がある。職員とも連携して組織で取り組むことが課題だといえる。

4 まとめ

これからも取組みを継続させていきたいと考えています。それには前述した通り、生徒の本への興味を優先させるということと、生徒が自ら図書室へ足を運ぶようになるような手立てを繰り返し継続していくということが大切だと思いました。朝読カードを使わずに、今まで通り自分で読みたい本を購入し読んでいる生徒も多くいましたが、それについて教員が咎めることは一切しませんでした。読書は生涯にわたる活動だと思います。生徒一人ひとりのペースに合わせ、これからも強制しないようにしていきたいと思っています。また、教員も負担感がなく取り組めるように工夫していきたいと思っています。小中での読書活動のいっそうの連携も鍵だと感じました。

「能動的・協働的な学びを支える学校図書館」
～図書委員会を中心とした読書活動の活性化を目指して～

富岡市立北中学校 牛込晴香

1 主題設定の理由

本校は週に一度の昼読書を行っているが、読書に関心をもたない生徒も多い。アニメや映画を小説化したものや漫画は読まれているが、学習関連の本はほとんど読まれていない。このことから、普段読んでいる本だけでなく、知識を得るための読書をするということにも関心をもつきっかけを作りたいと考える。

そこで、本年度は図書委員会が中心となり、「学習に関連する学級文庫」「学校行事に関する特設コーナー」「保護者からのおすすめの本紹介」を実施していくことで、学校全体の読書活動を活性化させ、能動的・協力的な学びにつなげたいと考え、本主題・サブテーマを設定した。

2 研究の概要

(1) 学習に関連する学級文庫

図書委員会から、学級文庫を設置することを生徒会集会で伝えた。図書室にある学習に関連する本を紹介したことで、学級文庫を設置する趣旨を理解しやすくした。

各学年の図書委員が今後の学習内容に関する学級文庫を選んだ。ポスターを掲示し、手に取りやすくした。



(2) 学校行事に関する特設コーナー

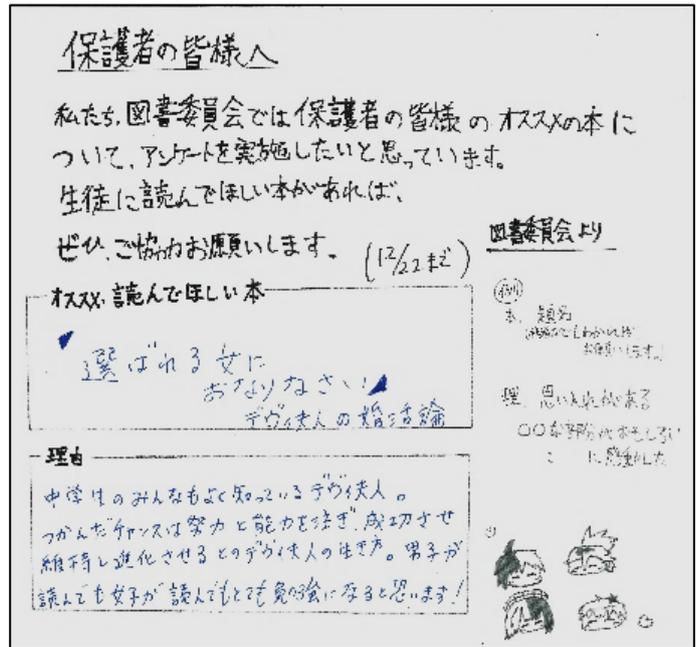
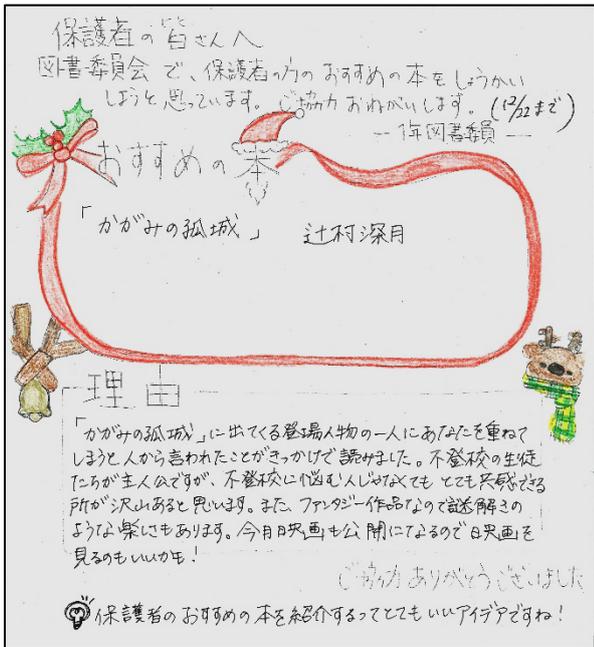
図書委員会と図書室事務員が相談しながら、学校行事に関連する本を紹介している。

人権旬間では、世界で起きている人権問題や友達との関わり方等の本を紹介していた。生徒の目に留まり、読書を通して興味をもつきっかけを作ることができた。



(3) 保護者からのおすすめの本紹介

図書委員会の生徒が「生徒におすすめの本」のアンケートを実施した。学年ごとにアンケート用紙を作成し、クラスに呼びかけを行った。全家庭の半数近くの回答が集まった。回答をもとに、図書便りでおすすめの本をいくつか紹介していく予定である。



3 成果と課題

○成果

「学習に関連する学級文庫」は、授業内容と直接的に結び付いていたので、進んで本を読み、学習内容を深めようとする生徒の姿が見られるようになり、学習・読書活動への意見を高めるきっかけになった。

【生徒の声】

「授業の予習みたいな形になって、問題を解くときに本で読んだ内容を思い出して解くことができた。読んでみると楽しかった。」

「普段自分から読まない本や、変わった本などを読めてよかった。」

○課題

これから学習する内容だけでなく、既習内容の本も用意することで、振り返りの効果が得られ、より学習との関連を図れたのではないかと考える。

【生徒の声】

「学習に直結する本と学習内容に関連する本を両方置くと、勉強に興味がない人も手に取りやすくなるし、結果的に学びに生かすことができると思う。」

「今話題になっているものや、問題となっているものがあるといいと思います。」

4 まとめ

「学習に関連する学級文庫」を通して、読書に興味をもつ生徒が増えた。「学校行事に関する特設コーナー」では、学校行事に関心をもって取り組めるようになったのではないかと考える。また、「保護者からのおすすめの本紹介」では、「保護者のおすすめの本を紹介するのはとてもよいアイデアですね」と保護者からコメントを頂いた。

図書委員会を中心とした3つの活動を通して、学習だけでなく、家庭とも繋がり、読書活動を活性化させることができたと思う。今回の成果と課題を参考に、今後も取組を続けていきたい。

「能動的・協働的な学びを支える学校図書館」

—並行読書を取り入れた国語科学習と学校図書館—

安中市立松井田中学校 山下めい

1 主題設定の理由

本校では昨年度の図書室貸し出し冊数は例年の平均に比べ、ほとんどの月で下回っていたことがわかった。GIGAスクールが本格的に開始され、休み時間もタブレットで課題をこなす生徒が増えたことが一因と思われる。

そこで生徒が図書に親しみつつ、学習にも利用できる機会や日常生活の中で図書館を利用する良さを実感し進んで活用できるような環境を作るべきだと考え、授業の中でそれを実践するべく、サブテーマを設定した。

2 研究の概要

本校生徒に学校図書館の利用目的についてアンケートをとったところ、物語文を読むために活用するというイメージが生徒の中には根強いことがわかった。そこで、国語の学習において物語文以外の作品や単元を扱う際に、並行読書を行うことで学校図書館の利用目的や生徒が触れる図書のジャンルの幅を広げることができるのではないかと考えた。

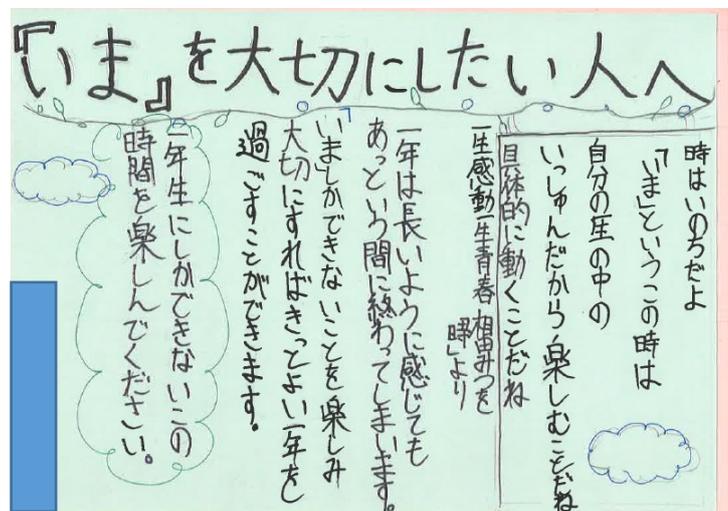
今年度は中学二年生の国語を担当しているため、牟礼慶子「見えないだけ」の詩を読み、新入生である後輩へ詩を引用した手紙を書く単元で並行読書を取り入れた。

① 詩を引用して手紙を書く

全3時間で単元を構成。すべて学校図書館での授業となった。1時間目に牟礼慶子の詩を鑑賞。学校図書館にある詩集を司書さんと相談しながら一カ所に集め、特設コーナーを作っていた。生徒はそこから気になったものを手にとって、昨年の自分と通じる部分や心に響いた表現などを引用して、グループで交流した。詩集を選ぶ際、司書さんとどんな手紙を書きたいのか、といった会話をしながらレファランスを受ける生徒も見られた。

2時間目には、牟礼慶子の詩を朗読したり、感想を交流したりなどした。後半は牟礼慶子の詩集を紹介したり、生徒同士で気になった詩集や作家のことを調べたり紹介し合ったりする時間を取り、新入生のころの自分を思い出しながら手紙に引用する詩を決めていった。

3時間目は、手紙の制作に時間をあて、掲示作業までを行い、お互いの手紙や引用した詩を鑑賞し合った。



3 成果と課題、反省点等

成果： 振り返りシートには、「普段詩を読むという習慣がなかったので新鮮だった。」「詩は短くて読みやすいことがわかった。朝読書などで、他の詩集をもっと読んでいきたい。」といった記述が多く見られた。「詩は抽象的で何を言っているのかわかりにくいから苦手だった。誰かのためにという視点で読むと楽しかった。」と苦手意識のあった生徒に親しみを持たせることができたと言える。また、昨年度のことを思い出し、「1年の教科書に工藤直子さんの詩が載っていた気がするので、その人の詩を引用した。」など、過去の学習の振り返りに繋げている生徒もいた。

実際に朝読書で学習に使った詩集とは違う詩集を真剣に読む生徒の姿が見られた。夏休みの課題である読書感想文に詩集を選び、感想文を書いてきた生徒もいた。

学校図書館を国語の授業のなかで利用することで、手紙を書くために引用する詩を探したり友達と詩を勧め合ったり、図書館司書さんに質問するといった能動的・協働的な学びを促すことができた。

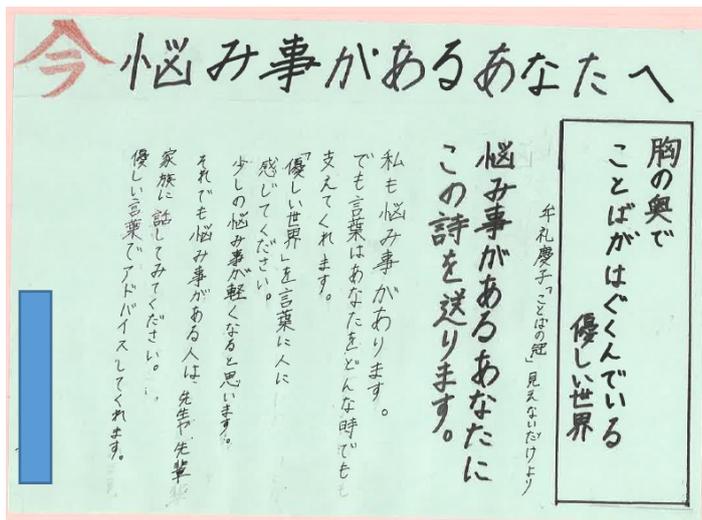
課題： 授業の振り返りとして、手紙の近くや下に特設コーナーを設置して、1年生も実際に詩集を手にとることができるようにすれば良かったと感じた。特設コーナーは図書室内にあったため、図書室に寄る機会のない生徒はほとんど手にとることがなかった。

手紙を書くという言語活動だったので、1年生の担当と打ち合わせて1年生側もその手紙に対するアクションが設定できればさらに学びにつながり、能動的な学びの支援につながったのだろうと考えられる。

今後の授業作りと図書館の利用については、並行読書の取り入れ方が難しいと感じた。詩集は、短編のものが多く、読書が苦手な生徒も気軽に手に取って読むことができたが、小説や説明文の並行読書をしようとする、どうしても時間がかかってしまうため、授業内でその並行読書を活用した活動が難しいと考えられる。総合や国語も交えて教科横断的な図書館の利活用の方法をさらに検討したい。

4 まとめ

今回の研究を通して、図書館の利用と授業作りの双方についてじっくりと検討することができた。学校内でも委員会活動などで休み時間が潰れるほか、課題の取組などで多忙な生徒も多い中、それらを考慮した上で、いかにして図書館利用と能動的・協働的な学びを結びつけて生徒が利用できる環境を作ることが大切だ。言語活動を通して図書館利用をしたり、そのために利用した本を特設コーナーとして展開しておいたりして、気軽に本を触ったり手に取ったりできる場の設定が必要だと感じた。今後も、授業作りと図書館利用の方法について研究していきたい。



「能動的・協働的な学びを支える学校図書館」

－委員会活動の活性化と図書館利用－

みどり市立大間々中学校

須田 理子

1 主題設定の理由

読書は新たな知識や新たな情報を与えてくれる。知らない言葉でも、文脈から意味を考えたり、内容の理解のために辞書やインターネットで言葉の意味を調べたりと、自然と語彙力を増やすことができる。さらに主人公に自分を投影させ、物語の世界に入ることによって登場人物の心情や情景を想像する力を養うことができる。

しかし本校では、図書室を利用する生徒は少なくないが、利用する生徒は限られており、本を読む生徒は読むが、読まない生徒は読まないという二極化が見られる。またタブレットやゲーム、スマートフォンなどといったメディアがあふれ、家などで自分から積極的に読書を行う生徒は少ない。

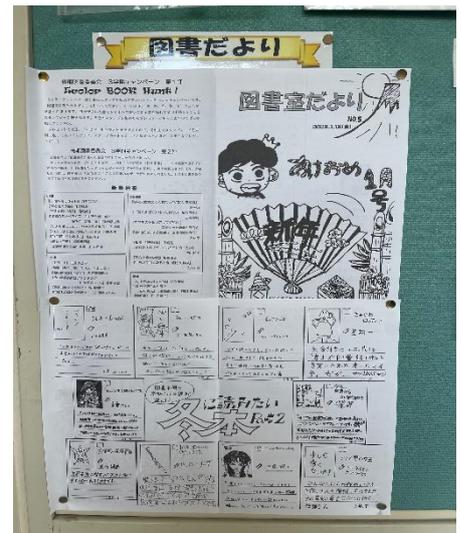
こうした背景から、図書委員会を中心に読書を生徒に積極的に呼びかけることで、図書館の利用や生徒の自主的な読書の推進を期待して今回のテーマを設定した。

2 研究の概要

①図書だよりでの本紹介

今まで図書室をあまり利用していない生徒にも読書の魅力を伝えたり、いつも同じ傾向の本ばかり借りる生徒にいろいろなジャンルの本に興味をもってらえたりするように図書だよりで、図書委員のおすすめの本の紹介を行った。

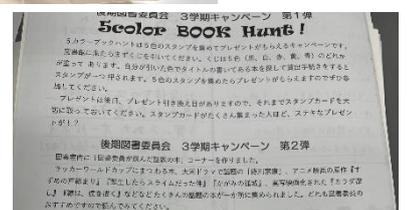
また図書委員がおすすめした本は、気軽に手に取ってもらえるように図書室に入って必ず目に入る、カウンターの目の前に「図書委員おすすめ本コーナー」を設けた。



②図書委員によるキャンペーン

図書室を利用する生徒を増やすために前期には図書委員のキャンペーンとして、本を多く借りた人にしおりを渡す「しおりプレゼントキャンペーン」、図書委員のおすすめの本の紹介や朗読、先生のおすすめの本を紹介する「図書っとラジオ」を行った。

後期には、くじを引き、引いた色のタイトルの本を借りるとスタンプがもらえる「5 color book Hunt!」を行った。このキャンペーンはスタンプを集めるとプレゼントがもらえる仕組みになっている。



③図書室利用を勧めるポスター作成

図書室利用を生徒たちに勧めるために図書委員がポスター作成を行った。生徒の目に入りやすいよう各教室や図書室の入り口に掲示している。

生徒たちはポスターが貼ってあると興味を示し、友達とポスターを見ながら話している様子が見られた。



④授業と連携した本貸出

国語や社会で習った文学作品や、故事成語・ことわざなどをより身近に感じたり、授業で習ったことよりも更に深く学習したりするために、教室前の廊下に貸出コーナーを設置した。

朝や休み時間に手に取って読んでいる生徒もおり、本に親しみ、知識を深めるきっかけになっている。



3 成果と課題

今回の活動を通して、図書委員会の生徒が中心になって協力し、図書室利用や読書を促すことができた。生徒が中心となって活動すると、今まであまり図書室を利用していなかった生徒も図書室や読書に興味を持ち、昼休みにおける図書館利用の活性化ができたと感じている。また、図書委員全員でキャンペーンや活動を行うことによって委員会活動自体も活性化することができた。

しかし、図書委員のキャンペーンが終わると図書室を利用する人が減り、限られた生徒のみの利用に戻ってしまったため、キャンペーン終了後の読書活動の広がりや継続性について考える必要がある。また、返却期日を過ぎてしまう生徒も増えているので、図書日よりや放送を活用して、図書室利用のルールや利用方法を改めて周知させる必要があると感じた。

4 まとめ

今年度は、図書委員が中心となり、積極的に読書の推進活動を行うことで読書の活性化に繋がってきた。生徒が主体となって活動していくことで、学校全体の読書に対する意識が向上すると考える。しかし、生徒が自発的に読書を行うためには、今後も継続的に、図書委員を中心とした読書の推進活動を行っていく必要がある。

能動的・協働的な学びを支える学校図書館

～「本を読もう！」という意欲を育む読書指導～

下仁田町立下仁田中学校 谷川 啓子

1 主題設定の理由

本年度本校に赴任し、読書活動を進める立場となった。まず感じたのは、「ただなんとなく読書の時間を過ごしている」生徒の多さであった。本校は週に3回(月・水・金)朝読書を15分間実施している。その時間は、確かに生徒は読書に取り組んではいる。しかし、「その15分しか読まない」「同じような本ばかり読んでいて内容が発展しない」「仕方なくやっている」という実態が見られ、もう少し読書への取り組みを活性化できないかと考えた。また、特に3年生は、図書室利用が少なく、会話・作文で出てくる語彙が少ないことも気になった。状況をよくするための読書指導が有効であろうと考え、本主題を設定した。

2 研究の概要

・主題に迫るための基本的な考え方

ただ漫然と読書に取り組む状況を打開し、さまざまなジャンルの本があることに気づかせ、少しでも手に取るように促したい。そのために普段から様々な形での本の紹介を実施し、生徒の視野を広げ、読書の楽しみに気づかせるようにしていく。



・具体的実践

① 普段の実践

ア、図書委員会を中心とした本の紹介活動。

ポップカードの制作などを委員会の時間を中心に行った。

イ、図書館支援員と連携した図書室での啓発活動やテーマ展示。

図書館支援員は週5日9:15～15:00勤務であり専属で図書室の管理を行っている。季節ごとのテーマ展示(愛鳥週間にまつわる本、

部活動応援本等)を積極的に行っている。また、カウンターに「知っているかな? 故事・ことわざカード」を置いて生徒に取り組んでもらうなど、言葉に興味を持ってもらえるようなしかけを用意。図書室に来る生徒が楽しんで取り組む様子が見られた。

②「読書月間」の実践: 10月下旬から1ヶ月間を「下仁田中学校読書月間」とし、強化月間として以下の活動を実施した。

ア、本の紹介活動(保護者・地域の方・教員作成のカード)

「中学生の我が子に読ませたいおすすめの本」というタイトルで、保護者に本を紹介していただくよう文書で依頼。任意の活動としたが、7枚の回答があり、ポップカード状の本の紹介カードを図書室内に展示した。また町公民館図書室にも、同じように「中学生に読ませたいおすすめの本」

本」の紹介を依頼。図書室に足を運ぶ、町の方への協力を依頼。11枚の回答を得て、こちらにも図書室内に掲示した。そこで、名前が挙がった本は展示・貸し出しも行い、実際に生徒が手に取れるような工夫を行った。

学校の教員だけでなく、保護者や地域の人にも紹介活動を広げた結果、興味を持って見る生徒も若干増え、実際に本を借りていく姿も見ることができた。また、家庭や地域へも学校として生徒の「読書活動」に力を入れていることを知らせることもでき、関心を持ってもらうことの一助になった。

イ、公民館図書室との連携活動（ブックトーク）を実施

町公民館図書室の職員に朝読書の時間を使って本の紹介及び「読書のすすめ」について話してもらった。生徒に近い若い方を中心に話していただいたので、関心を持って聞いてもらうことができた。

ウ、「朗読会」（プロを招いて）を実施

1, 2年と3年、各50分で実施。町教育長の紹介で元NHKアナウンサー・現図書館長さんに読み聞かせをしていただいた。全校生徒対象に実施していただくことができた。

・実践結果

紹介活動を通して、「今まで知らなかった本に触れることができた」「実際に借りて読んでみたら面白かった」などの言葉を生徒から聞くことができた。読み聞かせなども「久しぶりに音声で物語を楽しむことができた」など、新鮮な活動として捉えた生徒がいて、新たな興味を引くことができた。



3 成果と課題、反省点等

今年度意識したことは、様々な形で本への興味関心を高めること。そこに結果として様々な人（保護者・町職員）や機関（公民館図書室）を巻き込むことができた。新たな視点を生徒に提示し、「こんな本もあるんだ」という気づきを与えることができたと考える。

しかし、そのことがその後の読書時間の増加や図書室の貸出冊数増加に繋がったかという点、微増程度にとどまり「読む子は読むが、そうでない子は変わらず」という状況であった。また、なぜそうなってしまったのかという検証を行い、今後の活動に生かしていくことが重要になってくる。子供の読書力を高め、豊かな言葉や深い思考力を育てていくために「読書」は不可欠である。そのためには長いスパンで様々な取り組みが必要になる。本年度は、「まずやってみよう」という段階で終わったが、次年度は活動を継続しつつ、さらに発展させた活動ができたらと考えている。



4 まとめ

本校は、学校評価アンケートでも「朝読書以外の読書時間の少なさ」が課題となっている。少しでも改善できるように今後も活動を継続していく。

「能動的・協働的な学びを支える学校図書館」

一 国語科の学習と図書室の連携による読書活動の推進一

高山村立高山中学校 横山 絢音

1 主題設定の理由

本を読むことは、新しい言葉に出会ったり、新しい世界に触れたりして、自分自身の世界が広がるきっかけになる。また、読書をするのが、学びをさらに広げていくことにもつながる。

しかし、本校の実態を見ると、本をよく借りる生徒とあまり借りない生徒の差は大きく、読書を楽しんだり、本から学んだりしている生徒は少ないように感じる。そこで、まずは本に触れる場を作ることが必要であると考えた。図書室への来室は自由であるため、興味のない生徒は図書室に足を運ぼうという意識が薄い。そうした生徒にもまずは図書室に行く機会を作り、どんな本があるかをみて感じてもらうこと、そして、本を読んで楽しむこと自体が自身の心を豊かにし、学びを促進させるものであるという経験をしてほしいと考えた。

また、国語科の学習指導要領には、「読書とは、本を読むことに加え、新聞、雑誌を読んだり、何かを調べるために関係する本を読んだりすることを含んでいる」とある。このように国語科での読書を扱う意義を踏まえ、図書室を活用することが読書活動を推進するうえで有効であると考え、今回の主題を設定した。

2 研究の概要

まず、本に触れる機会を増やすために、図書室に来てもらうことが必要である。そのために、図書委員会の活動を生かして、図書室に来てもらう仕掛けを考えたい。

また、教科や自分で学習していく中で、調べ物をするときに必要な情報が載っている本を探したり、関連する本を見つけたりするという経験をする必要がある。そこで、国語科の学習と結びつけて、以下の実践を行うことにした。

① 読書週間における図書委員によるイベント

読書推進運動協議会で行っている10月27日～11月9日の読書週間に合わせて、図書委員会でイベントを開催した。生徒が考えたイベントの内容は、みんなが図書室にいる時間を楽しめるように、図書室でBGMを流すことと、手作りのしおりを作って、期間中に本を借りた人に配布することだった。普段は静かな図書室であるが、期間中は、図書委員が選んだ曲を流し、楽しい雰囲気を作ることができた。また、しおり作りでは、図書委員がイラストを考え、自分の好きな本をモチーフにしたり、キャラクターを描いたり18種類のしおりができた。図書室の利用者も友達が描いたしおりをもらったり、好きな絵柄を選んだりしていた。

あわせて、新刊やおすすめ本の帯ポップを作って、図書室にある本を紹介した。



② 国語科での意味調べや調べ物をする際の図書室の利用

4月、新入生に国語科の授業内で図書室オリエンテーションを行い、図書室の利用の仕方や本の貸し出し方法などについて説明をした。また、日本十進分類法のおおまかな分類について説明し、どこにど

の分類があるかを見つける活動をした。

12月には、国語科の「読書に親しむ」「情報を集めよう」の単元を関連させて、図書室で意味調べをしたり、興味がある分野の本を探してみたりする活動を行った。意味調べは、各単元で国語辞典を使って調べていたのでスムーズに活動できた。一方で、興味がある分野の本を探す活動では、どこにどんな分野の本があるのか分からず、なかなか見つけられない生徒もいた。そうした生徒には、分類法の掲示をもとに探してみると良いことを伝えた。一緒に探していくうちに、自分の探していた分野を見つけることができるようになっていった。目的の分野の棚を見つけると、タイトルや表紙などをみて自分が読みたい内容の本を探す様子も見られた。



③ 国語科と図書室の連携

三年生の国語科に、「合意形成に向けて話し合う」という単元があり、「図書室の利用を増やすには」という議題で話し合いを行った。単元としては、グループごとに具体的な提案を考えたり、観点を決めて提案を検討したりして、互いの意見を生かして合意形成に導くという内容である。「学校生活の中から解決したい課題を見つける」という導入で提示したものの一つに「図書室の利用を増やすには」を挙げ、他にも解決したい課題を募集し、投票を行って議題を決定した。生徒は、ブレインストーミングで自由にアイデアを出し、効果と実現性の観点から出たアイデアを整理して、図書委員会に提案する意見について合意形成を図った。生徒から出された意見は図書委員会で紹介し、その中からリクエスト募集を周知するなどの活動を行った。



3 成果と課題

◇成果

図書委員会の活動により、イベント期間中は友達と一緒に図書室に来室する生徒が増えた。本の貸し出し数についても前年の同じ時期より増加した。また、イベントで配布したしおりを使っている生徒もあり、図書室の利用と読書が身近になった生徒も見受けられる。

調べ物をするときの本の探し方については、国語科の授業内で取り組むことで、日本十進分類法から自分の探したい内容の本を見つけるという経験をする事ができた。

◆課題

本の貸し出し数は増えたが、図書室を継続的に利用する生徒は限られており、読書にあまり関心をもっていない生徒も多い。また、三年生の授業で出たアイデアも活用できていないものがあるため、生徒の意見を生かしてさらに読書活動を推進する取り組みを行う必要がある。

4 まとめ

図書委員会の活動や国語科の授業と関連した取り組みで、読書だけでなく調べ物など「情報センター」としての図書室のあり方にも目を向けることができた。特に生徒は、目的に合った本を自分で見つけるということを今までほとんど経験していなかったと思われるが、今回の実践で自身の学びにつながる経験ができたと考える。普段の生活や学習の中で、調べ物をしようと思ったときにこの経験を生かせるように、図書室の活用を継続していきたい。また、さらに多くの生徒が読書や調べ物で本に触れる機会を増やせるように、現在行っている生徒同士の本の紹介などの能動的な活動につなげていきたい。

能動的・共同的な学びを支える学校図書館

－委員会活動を通じた学校図書館活動の活性化について－

片品村立片品中学校 倉澤 秀祥

1 主題設定の理由

令和3年度より全面実施された新学習指導要領の中には「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に、学校図書館を活かすことが明記されている。具体的には「学校校図書館を計画的に利用しその機能の活用を図り、生徒の主体的、意欲的な学習活動や読書活動を充実すること。」とある。本校の読書活動の状況は以下の通りである。

【学校図書館の活用及び本校の状況（本校）】

- (1) 1人当たりの年間貸出冊数 一人あたり 6冊(令和3年度)
- (2) 全校一斉の読書活動の実施状況 始業前に10分間実施

本校の課題として学校図書館を利用して本を借り、幅広い分野の読書に親しめる生徒が少ないことがある。そこで①読書に親しんでもらえるような図書委員会活動、②授業で活用しやすい学校図書館づくりを通して、委員会活動を充実させながら、能動的・共同的な学びを支える学校図書館の活性化を目指し、主題、副主題を設定した。

2 研究の概要

(1) 学校図書館の整備

片品中学校の学校図書館は平成30年に新校舎に移転された際に配架が規則的に行われていなかった。そこで平成31年に日本十進分類法に基づいて配架を見直した。その後図書委員会の委員会活動の際に配架の整理を行っている。そのことにより、資料を見つけやす



〈配架の工夫〉

厚紙で日本十進法分類に基づいて
わかりやすく掲示



〈地域学習コーナー〉

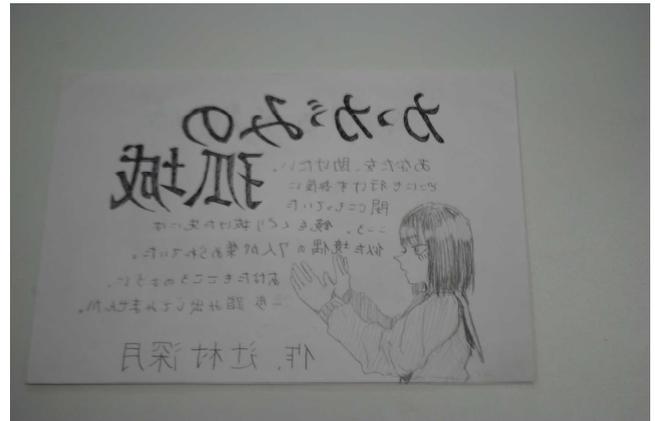
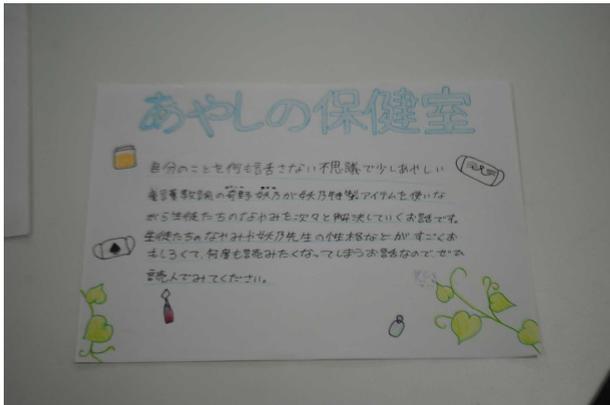
片品村、群馬県のものを中心に配架

く、授業で活用しやすい学校図書館にしている。また、本校では平成30年度から学校経営方針を「グローバルに考え、ローカルに活動するグローバル人材の育成」（広い視野をもち、片品の未来を創る人材の育成）と設定し、地域人材や地域教材を取り入れながら教育実践を行っている。そのため総合的な学習の時間に地域を調べる学習を行ったり、社会科の時間に地域をもとにした調査を行ったりしやすいように、「地域学習コーナー」を設置している。

(2) 図書を紹介

図書委員から前年度に引き続き「おすすめの本のPOP作り」を行いたいという提案があったためPOP作りを行った。今年度は委員会活動でPOPの作り方のワークシートを配布し、「図書室に来て

もらえる人が増えるよう魅力的な本を紹介しよう」というテーマを設定し、作成した。キャッチコピーや本の魅力を伝える紹介文やイラストを用いて図書委員が魅力的なPOPを作成することができた。完成品は学校内に掲示した。



(3) 移動図書の設置

各クラスに移動図書ということで学校図書館にある本の一部を配架している。授業で取り扱っている内容についての関連図書などを図書委員会活動で生徒に考えさせながら配架している。学校図書館にはよい本があることを知ってもらうためのよい活動になっている。

1年1組に置かれた移動図書



3 成果と課題

(1) 成果

- 委員会活動を通して生徒の図書に関する関心を高めることができた。昼休みに学校図書館に生徒がいることが多く、図書に親しもうという様子が見られる。
- 図書委員会活動が活発となり生徒主体で読書活動の啓発が行えている。

(2) 課題

- 図書貸し出しの電子化が行えておらず、読書量の把握や誰がどれだけ学校図書館を利用しているのかなど基本的なデータの収集が難しい。
- 継続して実施していくことで生徒の読書量の増加、学校図書館の活用頻度の増加に努める。

4 まとめ

学校図書館の活動をより活発にするには委員会活動の充実とともに学校支援センターの活用も必要ではないかと考える。特に学校図書館の電子化については、膨大な事務作業があるため司書教諭が配置されていない本校においては地域のボランティア活動などを呼びかけていく必要もあるのではないかと考える。

能動的・協働的な学びを支える学校図書館

図書委員会の活性化と図書室利用

玉村町立南中学校 金本拓真

1 主題設定の理由

本校の図書館利用は、以下のデータの通りである。図書室利用者も固定化されており、利用しない生徒はほとんど1年を通して図書室を利用しない生徒も多くいる。図書委員会において、図書室利用の促進活動をしていくことで、生徒の読書活動の活発化を図りたい。

【図書室 未利用率】										
R3年度	生徒数	貸出0冊(未利用者)		貸出1冊~5冊以下		貸出0冊~5冊以下		昨年度 (R2年度)	貸出0冊~5冊以下	
		人数	%	人数	%	人数	%		人数	%
1年	143	2	1	34	23	36	25		74	51.3
2年	144	76	52	22	15	98	68		106	69.2
3年	152	90	59	45	29	135	88		131	90.3
合計	439	168	38	101	23	269	61		311	70.3

2 研究の概要

委員会活動において、生徒主体の活動を共に考えていくことで、生徒の実態に則した活動を考案していく。今年度は、去年より活動を続けてきたオリジナルの「しおり作りイベント」を開催することにした。2週間程度、昼休みに図書室に来た生徒が図書委員会の用意した道具を使い、オリジナルのしおりを作るというイベントを開催した。

それ以外にも、給食中に流す本に関するコマーシャルを作成するというものも後期には出てきた。今後はそれに向けての活動を進めて行きたい。

3 成果と課題、反省点等

「しおり作りイベント」を開催した結果について述べていく。

イベント初日は、普段図書室に来ない生徒が多く図書室に来る様子が見られた。しかし、後半になるにつれて、あまり普段と変わらない様子になっていた。また、読書活動の推進に繋がったかどうかに関しては、判断が難しいように感じる。とりあえずしおりだけ作って帰るといった生徒も多かった。

成果としては、1つめに、普段学校に来ない生徒に対して、図書室利用のきっかけを作れたこと。2つめに、人が多くいる図書室を見ることで、図書室が楽しい場所であるという認識を生徒達に与えられたのではないかとということである。

課題や反省点としては、1つめに、図書委員会の生徒に対応を任せましたが、あまり上手な対応が出来なかった。そのため、図書室の他の魅力につなげることが出来なかったと考えられる。せっかく、入室してくれた生徒に対するアプローチをより一層充実させ、その後も図書室に足が向

くような工夫が必要であった。2つめに、継続性がなかったことである。一番盛況であったのは1日目であり、1度しおりを作成した生徒はその後は図書室に来る姿は見られなかった。話題を作ることは成功したが、ただ作って終わりということに終わってしまったように思える。もう少し発展性を持たせられると良かった。



4 まとめ

今回、委員会発案のイベントを開催することで図書館利用の活性化に伴う、読書活動の推進を目指した。「しおり作りイベント」を行うことで、来室者は確かに一時的に増えたが、定期的な利用にはうまくつなげることはできなかった。今後は、「図書室に来たい」と思えるような催しを定期的に行っていくことも図書室利用のきっかけの方策の一つではあるが、継続的な利用を目指した方法を考える必要があると感じた。具体的には、より図書室を身近に感じられる活動を考え、実施して行きたいと思う。

それでも、図書室を全く使用しない生徒が図書室に来る機会を作れたことは今回の大きな成果であると考えます。本校は、図書室が週三日解放される。その中でどのように図書室を活用させていくか。委員会活動をもとに今回は考えてきたが、授業での利用などの視点でも方策を考えていきたいと思う。

能動的・協働的な学びを支える学校図書館

～図書事務と連携した学校図書館の活用～

板倉町立板倉中学校 津野田保代

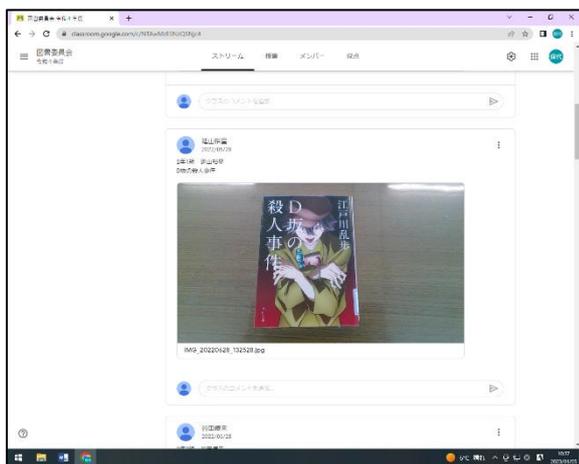
1. 主題設定の理由

板倉町じゃ、小学校においても図書館教育に力を入れているため、本校の生徒1人あたりの読書量は全国平均よりも高い状態にある。しかし、部活動や塾等に時間をとられ、小学校の時よりも読書量は減る傾向にあり、特に本年度は例年の読書量を下回ってしまっている。小学校で培われた読書力が中学校でも継続されるよう、様々な手立てを図書事務と共に考え実践することとした。

2. 研究概要

生徒に読書活動をアプローチする方法として次の3点を考えた。

- (1) 1人1台タブレット配布の現状に合わせ、ICTを活用したアプローチ
- (2) 朝読書の時間を活用したアプローチ
- (3) 新聞を活用したアプローチ



(1) 1人1台タブレット配布の現状に合わせ、ICTを活用したアプローチ

委員会の生徒に新刊図書の中から興味をもった作品を選んでもらい、自身のタブレットで書籍の表紙の写真を撮り、学校全体のストリームにアップして紹介してもらった(左写真)。

(2) 朝読書の時間を活用したアプローチ

2学期を前に、1学期の読書数が昨年よりもかなり少ない状態になっていると図書事務から話があった。そこで、朝読書の時間を使って全クラスローテーションで図書館に足を運んでもらうこととした。「借りなくてもいい」「図書館に足を運んでもらうことがねらい」と担任に伝え、気楽に来てもらうよう話した。10分程度の時間しかないため「本を借りたい」と思った生徒が受け付けカウンターで留まらないよう、図書事務に名前が入ったバーコードをシール状にしてもらい、借りたい本に貼り付けて図書室のテーブルの上に置いておいてから借りるという借り方に変えてもらった。

(3) 新聞を活用したアプローチ

3年ほど前から取り入れている活動に「ニュースデリバリー」と呼ばれているものがある。

学校で購入している新聞を図書館に置いているのだが、新聞を読む習慣がない最近の生徒達は、テレビにおいても読む気配がない。そこで、毎週月曜日の朝読書に合わせて生徒の下駄箱にA4サイズの新聞記事の抜粋コピーを配布する「ニュースデリバリー」という作戦を考えた。

- ① 週に一度配達される「朝日中学生新聞」の記事の中から記事を1つ選ぶ
- ② A4サイズ片面(最大でも両面)に収まるように記事を配置する

朝日中高生新聞



朝日中高生新聞



- ③ 希望する生徒の下駄箱に月曜日の朝、配布する
 - ④ 朝読書の時間にこの新聞を読んでもかまわない。
- 以上のようなルールで提案し、実施している。

3. 成果と課題

<成果>

(1)については、図書事務と司書教諭で選書を行っているが、その中で生徒自身が気になる書籍

をピックアップし紹介してもらうことで、生徒目線での紹介ができた。(2)については、10分という短い時間でもクラスのほぼ全員の生徒が本を借りていくことができた。ほとんどの生徒が図書室に来れば数冊の本を借りていったことから、意図的な図書館利用を促す必要があると感じた。(3)については、現在約30名が登録をしており、朝読書の時間に読んでいる姿が見られる。

<課題>

図書室を訪れる生徒の数は多いが、借りていく生徒の数がなかなか伸びていかない状態にある。3年前に図書館担当となり、今までにないアプローチをした時には貸し出し冊数が伸び、多くの生徒に本を手にとってもらうことができた。順調に貸し出し人数・貸し出し冊数ともに伸びてきていたが、本年度は下がる傾向にあり、手立てを講じてもなかなか回復していかない。次年度は生徒たちの読書傾向や読書力に応じた選書や、動きのあるアプローチ、積極的な図書館経営が必要だと考える。

また、小学校では「図書館の時間」が設定されているため、休み時間に本を借りにくる必要が無い。つまり、生徒達が「本が読みたくて図書室に来て本を借りている」とかという、そうとは言いきれない環境が本町では考えられる。本が読みたくて図書館に足を運んだり、本を読みたいという思いを高めたりする読書指導も考えていく必要がある。

4. まとめ

次年度に向けて本校の生徒達の「図書館活用」を促すために今後行っていきたい具体的な策として、次の2点を挙げたい。

- ① 今の生徒達の読書に関する実態を調査し、彼らに合った読書量を増やす手立てや選書を行えるようにする。
- ② 図書館から飛び出した「積極的な」図書館経営を行っていく。

①についてであるが、生徒達の実態を調査するためには、Google フォームを使ったアンケートを行い、生徒達の読書志向や読書力を適切に見極める必要がある。また、アンケートを元に本校の生徒達の読書力を鑑みた上で中学生として読んで欲しい図書の選書を柔軟に行っていく。

②に示した「図書館から飛び出した積極的な図書館経営」とは、図書館で生徒が来ることを待つのではなく、朝読書や国語の時間を活用して関連図書やおすすめ図書を紹介したり、図書館ではない場所(理科室や美術室、保健室、廊下等)にも図書を置いて、借りられるような工夫をしたりすることである。各教科担当と連携を図り、授業との関連図書の紹介や授業での図書の活用を積極的に促していきたい。